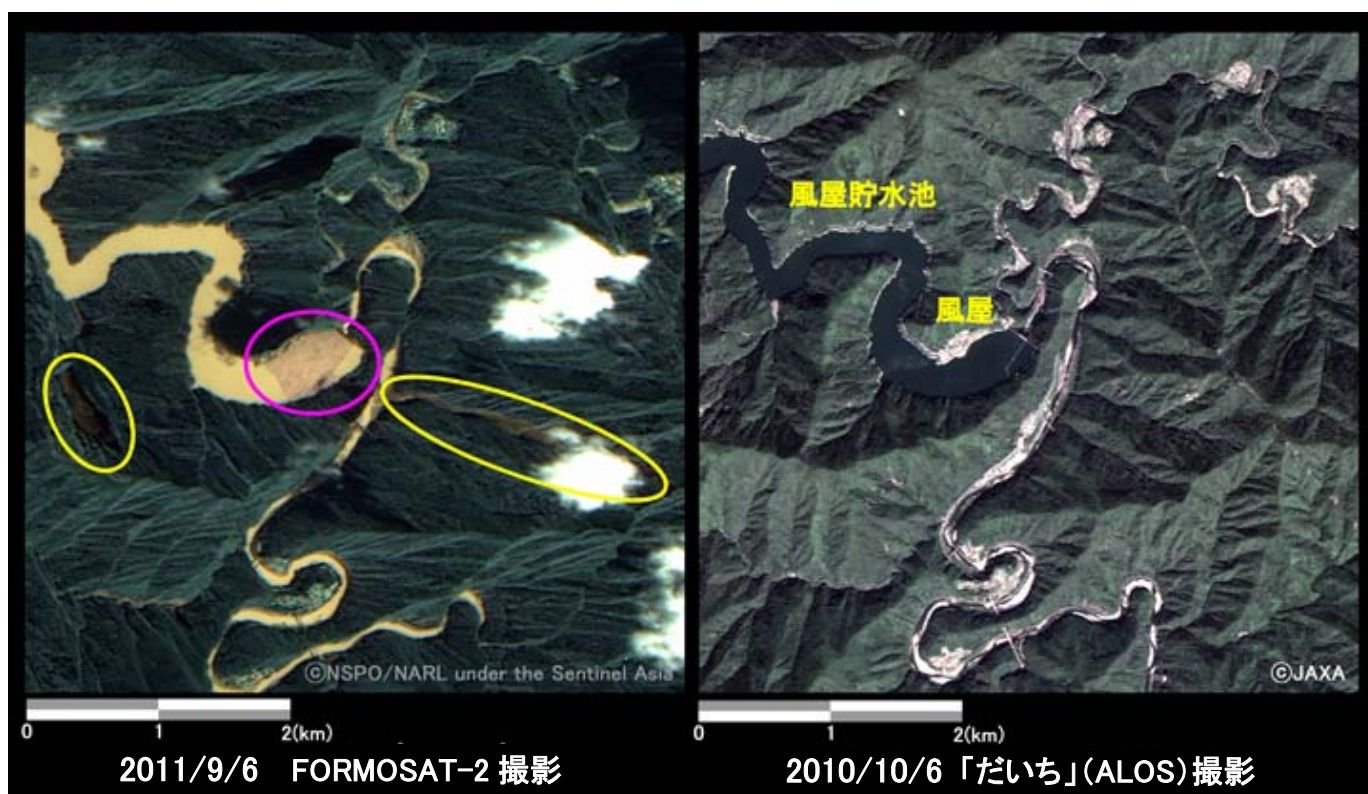


台湾の人工衛星が宇宙から捉えた 台風12号の被災地の様子

2011年9月2日から4日にかけて大型で強い台風12号の通過に伴って、四国、近畿、中国、東海地方を中心に広い範囲で記録的な大雨が続き、各地で土砂崩れ、堤防の決壊などの被害がもたらされています。宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、台湾の国家実験研究院(NARL)の協力により提供された、同研究院のFORMOSAT-2(フォルモサット・ツー)衛星の観測データを分析し、被災地の様子を明らかにしました。



奈良県十津川村 風屋貯水池周辺の様子 (約5km×5km のエリア)

左は災害後の2011年9月6日にフォルモサット・ツーにより、右は災害前の2010年10月6日に「だいち」により観測されたデータを元に作成された画像です。**黄色の枠で示した部分**では森林(緑色)と土砂崩れ(茶色)の場所がはっきりと区別できます。また、**ピンクの枠で示した箇所**では、土砂崩れによる堆積(たいせき)物がある様子が確認できます。

センチネル・アジアの全体フロー



「センチネル・アジア」は、アジア太平洋域の自然災害の監視を目的とした国際協力プロジェクトです。地球観測衛星など宇宙技術を使って得た災害関連情報をインターネット上で共有し、台風、洪水、地震、津波、火山噴火、山火事など自然災害被害を軽減、予防することを目的としています。今回のデータは「センチネル・アジア」より提供されました。

2005年に提唱され、現在、20カ国51機関、8国際機関が参加し、その利用や実績は着実に広がってきました。

2011年5月に運用を終了したJAXAの陸域観測技術衛星「だいち」の画像も、「センチネル・アジア」に提供され、自然災害被害の把握などに貢献してきました。

人工衛星による災害観測の画像は、下記ウェブサイトですら隨時公開中です！



http://www.eorc.jaxa.jp/ALOS/gallery/jnew_arr.htm